

福祉にいがた

Fukushi Niigata

CONTENTS

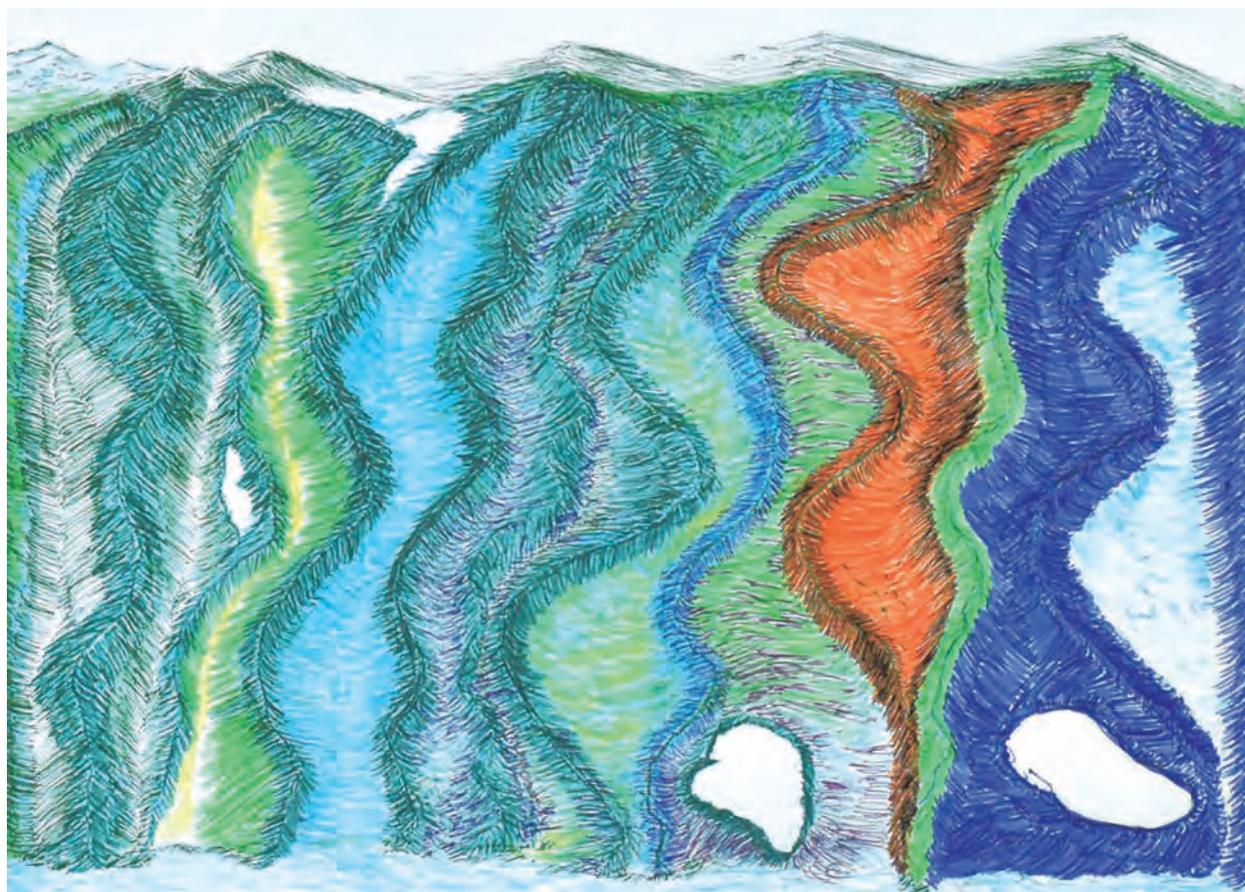
巻頭特集

「生きる」—統合失調症

幻聴幻覚とともに（2～4面）

- 「福祉介護健康フェア」—29日長岡皮切り
- 19日上越文化会館で「新潟県民福祉大会」
- 福祉の現場—住民交流の場へ古い蔵修復

10月号
2023
第854号



絵 「北アルプス・劔岳」
作・永越 環（上越市）



社会福祉
法人

新潟県社会福祉協議会

<https://www.fukushiniigata.or.jp/>

福祉にいがた 福祉にいがた 福祉にいがた
バックナンバー
こちらから

幼少期に「雅子さん」現われ

統合失調症

幻聴幻覚とともに



自身の半生と心の中を語る星野佳子さん

独 星野 佳子 さん
白 = 五泉市 =

五泉市の郊外、菅名岳の麓の集落に立つ古民家の実家で、農業を手伝いながら高校生の長男と70代の母、それに自身の弟の4人で暮らす。

不安な心に「大丈夫よ」

40年近くいつもそばで励まし

幻覚・幻聴が症状の一つとして知られる統合失調症。深刻な精神障害の一つで、発症すると社会や人と疎遠になりがちなうえ、自殺志向が強く、治療や周囲の支援が欠かせない。当事者は幻聴・幻覚をいつ、どのように感じ始め、ど

のように向き合ってきたのか。多様な症状があるという統合失調症の当事者の一例に過ぎないかもしれないが、幻聴・幻覚が始まって40年近いという、五泉市の星野佳子さん。40代半ばから、自身の半生と心の中を語ってもらった。

人には「幻聴や幻覚だ」と言われても、私には見える話もできる、体感もある。出会いが6歳。家族は祖父母と父、身重の母、姉2人だった。母の出産が近づくに連れ「生まれたらお母さんを取られてしまう」と毎日、不安で仕方なかった。



ある日「大丈夫だよ」と

女性の声が聞こえた。小さい女性で、私を抱きしめてくれた。温もりも感じた。いつしか「雅子さん」と呼んでいた。それから、雅子さんはいつもそばにいて慰め、励ましてくれる。

母は長男を出産した。弟には病気があり、治療のため、母が付き添って直ちに入院。その後も入院を繰り返し続けた。

本当に母を取られてしまったと思った。同時に「雅子さんがお母さんだったら」と思いを募らせた。

中学に進むと、学校での人間関係に悩むようになった。

た。眠れない日が続き、苦しかった。

初めて精神科へ、母から連れて行ってもらった。

高校の3年間は楽しかった。市外の高校で、家から駅まで自転車、その先は電車だった。雅子さんも毎朝、一緒に自転車まで付き添ってくれた。今、思い出しでも楽しい。

卒業後は市外に就職したが、また、悩むようになった。

19歳の頃は「うつ病だ」と思い込んでいた。

21歳。ふさぎ込んだ。母に促され、勤めに出た。

25歳。市外に住む高校の先輩と結婚。相手には、うつ気味で精神科に通っていると打ち明けていた。

26歳で男児を出産した。しかし、婚家になじめず、体調を崩した。

28歳で離婚。親権を得て長男を連れ、実家に戻った。

人生の慶事はそのまま、人生のアップダウンでもあった。精神科の医師に初めて統合失調症と診断されたのもこの頃だった。

少女漫画風ですが…

私には こう見える

描・星野 佳子



6歳で見てから38年、雅子さんは年を取らない。この服装はよそ行き

雅子さん



お酒が大好きなヒゲジイ。昼間は近くの竹藪にいる

ヒゲジイ



クロは、人というより黒い影だけ

んが「逃げて」と助けてくれた。でも、その後はクロもおとなしくなり、今はみんな仲良し家族。

40年近く「ともに生きてきた」という雅子さんをはじめ、幻聴幻覚の3人との生活を語る。

私が朝、起きると雅子さんはまだ寝ている。クロもヒゲジイも既に起き出して外にいる。(4ページへ)

病名、近年知り自覚も

幻聴 幻覚 ヒゲジイら加わり3人に

でも、先生の説明を聞いていなくて、よく分からなかった。付き添った母は認めたくない様子だった。

30代半ば。うつうつとした日々を過ごし、毎晩泣いた。処方された薬の量が多く、飲むのも大変だった。苦しい時には決まって雅子さんが慰めてくれた。

精神科医の訪問診療を頼んでいた6年ほど前、自分

の病名を尋ねた。統合失調症と教えられ、自覚するようになった。

幻聴幻覚はこれまでに、雅子さんのほか、ひげ面のヒゲ

ジイ、黒い影だけのクロが加わった。ヒゲジイはおっとりした好々爺。でも、クロは違った。粗暴な性格で、幼子への暴力をそそのかした。

子どもが2、3歳の頃、

クロに言われるまま蹴ってしまった。ひどいことをしてしまった。今も罪悪感にさいなまれる。

クロが現れると、雅子さ

これまでに精神障害2級と認定された。今も心療内科に通い、服薬を続ける。治療のおかげで病状が安定したせいも、話し方も考え方も明るい。よく笑う。

私のモットーは明るく生きること。そうしないと人生、損だから。

仕事は農業手伝いと、家のストーブの薪作り。

趣味は春先のタケノコ掘り。雪が解けるとすぐ、家の山林に出掛ける。食べるのよりも掘るのが楽しい。体験会を開いて掘り方をみんなに教えたい。

【統合失調症】深刻な精神障害の一つで、発症すると考えがまとまりづらくなり、症状として幻聴や幻覚、支離滅裂な発言、異常行動、意

統合失調症

およそ100人に1人患者の5、6%自殺 早期治療ほど回復

称を変えた。

(インターネット

欲の低下、認知機能の低下、感情表現の減少などが見られる。

有病者は国内で70万人とも80万人とも推計される。人口の0.7〜0.8%に当たり、

最も問題なのが「自殺」に對してで、患者の5〜6%が遂げ、約20%が試み、さらに

の場合、一般よりも約10年、短いという。「統合失調症」はかつて「精

ト「こころの情報サイト」「MSDマニュアル家庭版」などより)

治療進むと見えなく？ 困るなあ

雅子さんは生きる支え 寝る前の雑談楽しい

（3ページから続く）

寝る前に3人とその日を振り返っておしゃべりするのが楽しい。例えば「今日の私の運転、どうだった？」「あの人、おもしろかったね」などと、ね。

3人の中でも雅子さんは特別で、私の支え。私がおこへ行くにも一緒に付いて来てくれる。いつもそばにいて注意もしてくれる。私に予定や約束を守って生活できるのは雅子さんが「ほら、予定があるよ」とか、

言ってくれるから。

3人の存在を誰かに話しても否定されることがほとんどだ。

でも、3人は確かにいる。否定されて、悔しくはないけど、残念だと思う。

私も治療が進んだら雅子さんが見えなくなるのかな？ それも困るなあ。

統合失調症の治療を続けながらも、どこか、完治を望んでいないふうでもある。症状である幻聴幻覚が「プラスの働き」をして、心のバランスが絶妙に保たれているのだから。



集落を歩く星野佳子さん。昔ながらの趣ある杉並木の道が集落を貫く

第四北越証券と明治安田AM

投信収益 2700万円寄付

今年も県社協など3団体と県へ

投資信託「いがた未来応援

日本株ファンド」を運用する明

治安田アセットマネジメント

(AM、東京)と、販売する第

四北越証券(長岡)が8月23日、

県社会福祉協議会と県母子寡婦

福祉連合会、県看護協会の福祉

3団体に計約1338万円を寄

付しました。両社は県にも14

00万円を寄付。今年の寄付総

額は約2738万円となりました

た。寄付金は教育格差是正や看

護職員の職場環境向上、フード

バンクなどに使われます。

ファンドは、顧客からの手数

料一部を寄付金として蓄える仕

組みで、1年間に貯まった全額

を毎年寄付しており、今回が4

回目。ファンド創設から4年

たつて顧客と販売残高ともに伸

び、今年の寄付総額は昨年より

約400万円増えました。

新潟ユニゾンプラザでの贈呈

式では第四北越証券の今村博社

長や明治安田AMの西尾友宏社

長が「このファンドが新潟県の

未来を輝かせるよう、若者の架

け橋となれるよう、さらに尽力

したい」などとあいさつ。

県社会福祉協議会の竹内希六

会長は「施設の子どもたちが夢

や未来を広げていく教育用品や

門出の支援に活用したい」と謝

辞を述べました。県母子寡婦福

祉連の茂又悦子会長と県看護協

会の斎藤有子会長も感謝の言葉

を述べました。



贈呈式後に記念撮影する第四北越証券の今村博社長(右端)と県社協の竹内希六会長(右から3人目)、明治安田AMの西尾友宏社長(左端)ら

著名人講演、セミナー、講座…

福祉・介護・健康フェア 多催に

「地域共生社会」目指して

長岡10月29日

上越11月12日

新潟11月25日

新潟会場

地域共生社会を目指して「福祉・介護・健康フェア」が10月11月、今年も長岡と上越、新潟の3会場で開催されます。今年も、長岡が会場も開催日も変更。「道の駅 ながおか花火館」(喜多町)で1日だけの開催となります。人気のある施設だけに、にぎわいが見込まれます。一方、福祉と農業をつなぐ農産物販売として好評の「農福マルシェ」が今年も3会場で開催されます。フェアは新潟日報社と新潟県社会福祉協議会、開催地の3市社協の主催です。(イベント内容は変更になることがあります。ご了承ください)

長岡会場

企業団体の出展も

長岡会場は10月29日(日)午前10時に「道の駅 ながおか花火館」で開催。「農福マルシェ」は農業と福祉のコラボをアピールするほか、社会福祉法人や企業が、福祉関連の最新の情報や商品を出展します。

講座では、認知症の人を1人の人として尊重しケアする「パーソン・センタード・ケア」を学ぶ方向です。セミナーは「任意後見制度」「相続・相続税」などがテーマの予定。

建物の前のさじき広場では子ども向けの「鉄棒ぶら下がり」「落書きコーナー」が設けられます(雨天の場合、中止もあります)。

上越会場

世界最高齢プログラマー

若宮正子さん講演

上越会場は11月12日(日)午前10時、高田城祉公園オーレンプラザで開催。ステージでは、81歳でゲームアプリを開発し「世界最高齢プログラマー」と呼ばれる若宮正子さん(88)が「人生は60歳からがおもしろい」を講演。



客席がぎっしり埋まった新潟会場の講演会=令和4年

さらに、順天堂大学准教授でTV番組での筋肉体操で知られる谷本道哉さんが「健康寿命を延ばすカラダづくり」と題し、会場と一緒に筋肉体操を楽しみます。

このほか「認知症サポート・養成講座」や、福祉・介護・健康関連の講座・セミナーもあります。

全盲桂福点さん登壇

11月25日(土)午前9時30分、新潟市産業振興センター(中央区)で開催。

ステージでは、全盲の落語家・桂福点さんが「出会いは心の光、障がい者理解をすすめるために(仮)」と題し講演します。

さらに、元プロボクサーでロンドン五輪金メダリスト村田諒太さんと、加茂市出身の元プロボクサー高橋竜平さんが一緒に登壇。健康な体とボクシングへの情熱を語り合います。

このほか、新潟日報社主催「健活講座」の一環として「生活習慣病」「日々の食事」の講座もあります。ステージ以外では、フェアのテーマに関連した商品やサービスを企業・団体が出展。飲食ブースや大抽選コーナーも設けられ、昨年同様、多彩で盛りだくさんの催しとなる予定です。

日本国内でのボランティア活動中のケガや賠償責任を補償

ボランティア活動保険



保険金額・年間保険料 (1名あたり) 団体割引20%適用済 / 過去の損害率による割増適用

保険金の種類		プラン			
		基本プラン	天災・地震補償プラン	特定感染症重点プラン	
ケガの補償	死亡保険金	1,040万円			
	後遺障害保険金	1,040万円(限度額)			
	入院保険金日額	6,500円			
	手術保険金	入院中の手術	65,000円		
		外来の手術	32,500円		
	通院保険金日額	4,000円			
	特定感染症	補償開始日から10日以内は補償対象外 ^(*)	初日から補償		
賠償責任の補償	賠償責任保険金 (対人・対物共通)	5億円(限度額)			
年間保険料		350円	500円	550円	

商品パンフレットは
コチラから



(ふくしの保険)
ホームページ

*3月末までに契約手続きが完了し、前年度から継続して契約される場合は初日から補償します。

<重要>

- ◆ 基本プランでは地震・噴火・津波に起因する死傷は補償されません。
- ◆ 特定感染症重点プランでは中途加入の場合でも補償開始日より特定感染症が補償対象となります。
- ◆ 年度途中でご加入される場合も上記の保険料となります。
- ◆ 中途脱退による保険料の返金はありません。
- ◆ 途中でボランティアの入替や、ご加入プランの変更はできません。
- ◆ ご加入は、お1人につきいずれかのプラン1口のみとなります。

ボランティア行事用保険 (傷害保険、国内旅行傷害保険特約付傷害保険、賠償責任保険)

送迎サービス補償 (傷害保険)

福祉サービス総合補償
(傷害保険、賠償責任保険、約定履行費用保険(オプション))

● このご案内は概要を説明したものです。詳細は、「ボランティア活動保険パンフレット」にてご確認ください。●

団体契約者 **社会福祉法人 全国社会福祉協議会**

〈引受幹事〉 損害保険ジャパン株式会社 医療・福祉開発部 第二課

TEL: 03 (3349) 5137

受付時間: 平日の9:00~17:00 (土日・祝日、年末年始を除きます。)

この保険は、全国社会福祉協議会が損害保険会社と一括して締結する団体契約です。

取扱代理店 **株式会社 福祉保険サービス**

〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F

TEL: 03 (3581) 4667

受付時間: 平日の9:30~17:30 (土日・祝日、年末年始を除きます。)

第73回新潟県民福祉大会 10月19日に上越市で開催

老人福祉法施行60周年を記念して第73回「新潟県民福祉大会」(主催:県、県社会福祉協議会、県共同募金会、上越市、上越市社会福祉協議会)を開催します。

式典では社会福祉功労者を表彰します。その後、消化器科の専門医が「寝たきりを防ぐ!」をテーマに記念講演を行います。



令和4年の県民福祉大会=長岡市

◆ 期日:令和5年10月19日(木)

◆ 場所:上越文化会館

◆ 内容

▶ 式典

社会福祉功労者に対し県知事表彰、県社会福祉協議会長表彰、県共同募金会長表彰を行います。

▶ 記念講演

「寝たきりを防ぐ!『脳卒中』『認知症』にならない食事と運動のコツ」と題して「近藤しんたろうクリニック」(東京都渋谷区)の近藤慎太郎院長が講演します。近藤院長は、特技の漫画を描いて医療情報を正しく伝える活動をしているほか「胃がん・大腸がんを治す・防ぐ!」などの著書があります。

◆ その他

開催要綱、申込書等は新潟県社会福祉協議会ホームページに掲載しています。

◆ 問い合わせ

新潟県社会福祉協議会 総務管理課

▶ 電話:025(281)5520

▶ ホームページ:<https://www.fukushiniigata.or.jp> 「新潟県社協」で検索



「リユース会」へと、市民から数多く提供された不要の制服や学用品など

燕市社協

市民提供の中高制服、学用品

必要な人へ無料譲渡

10月14日に初のリユース会

燕市社会福祉協議会は、不要となったランドセルや制服、学用品などを必要な人に譲渡する「学用品等リユース会」を、10月14日(土)午後1時30分から、燕市吉田日之出町の市民交流センター3階多目的ホールで初めて開きます。

今年5月から、不要な学用品の提供を広く市民に募ったところ、ランドセル60個をはじめ、

中学高校の男子学生服、女子セーラー服、体操着、柔道着、ワイシャツなどの衣類のほか、鉛筆やノート、習字道具、辞書など、多種多様な学用品が数多く集まりました。

当日は、開会時間内に会場を訪れた人がリユース品を直接、手に取り、欲しい場合は無料で譲り受けられます。申し込みや予約など一切、不要です。

市社協は、循環型社会を目指す一環として、学用品リユース会を初めて計画。市内のフードバンクやこども食堂、行政などの協力を得て、リユース会実施の準備を進めてきました。

リユース会は、新学期を前にした来年3月にも開催する予定で、引き続き、不要品の提供を呼び掛けていきます。

問い合わせは燕市社会福祉協議会地域福祉課、電話0256(78)7866。



赤い羽根 情報

令和5年度共同募金公告

社会福祉法第119条に基づき新潟県における令和5年度共同募金計画について、次のとおり公告します。

令和5年10月 社会福祉法人 新潟県共同募金会 会長 佐藤 明

1 募金募集の期間

- 一般募金 令和5年10月1日から令和5年12月31日まで
- 地域歳末たすけあい募金 令和5年12月1日から令和5年12月31日まで
- NHK歳末たすけあい募金 令和5年12月1日から令和5年12月25日まで
- テーマ型募金 令和6年1月1日から令和6年3月31日まで

2 募金の目標額 473,226千円

一般募金 368,018千円 地域歳末たすけあい募金 73,708千円 NHK歳末たすけあい募金 8,500千円 テーマ型募金 23,000千円

3 配分の範囲

新潟県内において、社会福祉事業、更生保護事業その他の社会福祉を目的とする事業を実施する者(国及び地方公共団体を除く)とする。

4 配分の計画及び変更

配分要望のあった次に掲げる事業に対し、募金実績の範囲内において配分を行う。

(1) 一般募金の配分

①広域配分計画

●県広域社会福祉団体

(単位：千円)

配分先	配分予定額	使途内容
新潟県社会福祉協議会	5,783	県民福祉大会等
新潟県母子寡婦福祉連合会	300	県母子寡婦福祉大会
新潟県保育連盟	300	保育所問題研究委員会
新潟県身体障害者団体連合会	640	県身体障害者福祉大会等
新潟県老人クラブ連合会	416	県老人福祉大会
新潟県肢体不自由児協会	230	ふれ愛作品展
新潟県保護司会連合会	300	研修事業等
新潟県民生委員児童委員協議会	387	研修事業等
新潟県災害ボランティア調整会議	300	研修事業等
新潟県精神障害者家族会連合会	270	福祉フォーラムの開催
新潟いのちの電話	469	電話相談員養成事業
新潟県里親会	300	県里親大会等

●県広域社会福祉施設

配分先	配分予定額	使途内容
ゆうーわ	1,000	車両の購入
デイホーム有田	1,500	車両の購入
自立生活センター新発田	1,425	車両の購入
第二平成園	1,500	車両の購入
大浦の里	1,500	車両の購入
ケアセンターうしろやま	1,500	車両の購入
鹿瀬デイサービスセンター	1,500	車両の購入
出雲崎町デイサービスセンター	1,500	車両の購入
夢工房	1,319	車両の購入
きらきら保育園	2,000	園舎外壁張替工事
ドリームネクスト	1,349	ITCスマート農業化整備
こうめの里	2,000	特殊浴槽の入替
はさぎの里	2,000	特殊浴槽の入替
ケアハウスだいろ	2,000	浴槽系統ろ過装置更新
桜花園	2,000	空調設備の入替
ケアハウスひう	2,000	特殊浴槽の入替
大井田保育園	346	玄関ドア工事電気錠取付
グリーンホームふたば	94	喀痰吸引機の購入
熊と森の湯	1,490	ネットワークカメラの設置
親里	2,000	全自動洗濯機の購入
スマイル赤泊	1,619	全自動洗濯脱水機の購入
しゃくなげの里	2,000	特殊浴槽の入替
みなみ園	1,300	空調設備の入替
ハートワーク高浜	742	除雪機の購入

●社会福祉協議会地域活動用車両

配分先	配分予定額	使途内容
新発田市社会福祉協議会ほか2団体	2,863	車両の購入

●地域活動支援センター

配分先	配分予定額	使途内容
地域活動支援センターなごみ他10団体	1,600	研修・交流事業等

●児童養護施設等就労支援

配分先	配分予定額	使途内容
児童養護施設等に在籍する生徒等	5,000	運転免許取得費

●地域活動支援助成

配分先	配分予定額	使途内容
美穂の里	300	里親子支援会事業
南区たすけあい・ぱる	150	居場所カフェ備品整備事業

●障害者支援施設車両

配分先	配分予定額	使途内容
障害者支援施設	4,500	車両の購入

●テーマ型募金支援

配分先	配分予定額	使途内容
福祉団体等	4,000	活動費

●その他

配分先	配分予定額	使途内容
災害等準備金積立金	13,500	災害時の活動積立金
災害見舞金	1,000	火災・水害の見舞金等
共同募金運動推進費	66,310	運動推進のための経費

●赤い羽根ポスト・コロナ社会に向けた福祉活動応援助成

配分先	配分予定額	使途内容
福祉団体等	1,000	活動費等

②地域配分計画

配分先	配分予定額	使途内容
地域福祉団体、社会福祉協議会など	52,795	高齢者への支援
	10,666	障害児(者)への支援
	23,960	児童・青少年への支援
	4,828	課題を抱える人への支援
	130,167	その他

(2) 地域歳末たすけあい

配分先	配分予定額	使途内容
地域福祉団体、社会福祉協議会など	34,786	高齢者への支援
	1,492	障害児(者)への支援
	1,973	児童・青少年への支援
	350	課題を抱える人への支援
	35,107	その他

(3) NHK歳末たすけあい

配分先	配分予定額	使途内容
福祉団体・難病患者支援団体など	8,500	車両整備等

(4) テーマ型募金

①あったか雪募金

配分先	配分予定額	使途内容
除雪ボランティア団体等	3,000	除雪資材の購入等

②新テーマ型募金

配分先	配分予定額	使途内容
福祉団体等	20,000	活動費等

※ 詳細な事業内容については赤い羽根データベースはねっと (<https://hanett.akaihane.or.jp/>) をご覧ください。

つながり 絶やさめ社会へ

赤い羽根募金始まる

第77回「赤い羽根共同募金」が10月1日、全国一斉にスタートしました。募金は来年3月31日までで、県内の目標額は4億7322万円です。

お住まいの町のさまざまな福祉活動や、防災・減災のために活用されます。今年も変わらぬ温かい善意とご協力をお願いします。

お寄せいただいた募金は、

共同募金運動は令和5年



度も「つながりをたやさない社会づくり」あなた一人じゃない」を全国共通助成テーマに展開されます。

中央共同募金会作成によるポスターⅡ写真Ⅱには「募金で支えられた人は、募金で支える人になる」とのメッセージが記され、募金の大切さを訴えています。

赤い羽根共同募金 目的や使途を解説

岩室ひまわりクラブで西蒲区募金委が学習会

新潟市西蒲区共同募金委員会、子どもたちに学習を通して「赤い羽根共同募金」をより身近に感じてもらおうと、学童保育の岩室ひまわりクラブで「福祉教育赤い羽根共同募金の活用



術」を実施しました。ひまわりクラブに通う子

ウオロクD 募金百貨店第12弾寄付 県共募へ109万円

「募金百貨店プロジェクト」第12弾（実施期間5月



8日〜7月2日）で集まった募金約109万円の贈呈式が8月30日、新潟市中央区の株式会社ウオロクホールディングス（HD）本社で行われましたⅡ写真Ⅱ。

このプロジェクトはスーパリーのウオロク各店舗で対象商品のサントリー飲料を購入すると1本につき1円が共同募金に寄付される仕組みです。

どもたち約20人が参加し、西蒲区共同募金委担当の職員から募金の目的や使い道などの説明を受けました。この後、全員で赤い羽根のポスターを切り絵で作成しましたⅡ写真Ⅱ。

贈呈式ではウオロクHDの本多伸一社長から新潟県共同募金会の佐藤明会長へ寄付金109万8094円の目録が贈られました。

本多社長は「地域社会との共生は私たちの企業の理念であり、この活動を通じて地域社会の向上につなげたい」とあいさつ。佐藤会長は謝辞の中で「地域福祉のほか、感染症や物価高騰で社会的に困窮し孤立している人の支援に役立たい」と述べました。



赤い羽根 情報



赤い羽根 情報





買った物をして会計を済ませた後のことです。

財布の口がよく閉まっていなかったのでしょうか、バッグにしまおうとした瞬間、小銭を盛大に床にぶちまけてしまいました。

「あゝあ」という周囲の視

優しさという力

線を感じつつ「やれやれ拾うか…」としゃがみ込むと、こちらにパタパタと駆け寄ってくる足音が。

小学生低学年くらいでしょうが、1人の女の子と一緒に拾うのを手伝ってくれました。最後に「ありがとう」と言うと、女の子はこくりとうなずいて去っていきました。

小さな親切で心温か



ますように。その土台を築くのが、大人である私たちの役割なのでしよう。

(美央)

見て見ぬふりもできなかったらうに、思わぬ助け船でした。他の人を助けようとする自発的行動を、心理学では「社会的行動」と言うそうです。ある研究によれば、子どもがこういった行動をするのは、誰かに褒められるからではなく、自分がうれしくなるからなのだとか。損得ではなく、自分の内側から生まれる思いや気持ちに対して素直に行動できる勇気は、すっかり大人になってしまった私たちも見習わなければいけませんね。小さな親切が私の心を温かくしてくれたように、思いやりの気持ちから生まれるぬくもりは大きな力を持っています。あの女の子が、成長しても誰にも優しい気持ちを持ち続けられるような社会でありますように。その土台を築くのが、大人である私たちの役割なのでしよう。

麻薬覚醒剤大麻

乱用防止へ運動 10~11月 県が展開

10月1日～11月30日の2カ月

間は全国一斉に「麻薬・覚醒剤・大麻乱用防止運動」の期間です。新潟県をはじめとする各都道府県と厚生労働省は今年も薬物乱用の根絶へ向け、薬物乱用の害悪を訴え、県民の意識向上を目指します。



期間中、新潟県はホームページで広報するほか、ポスター掲示、パンフレット配布などを通じて運動展開に努めます。

乱用が問題の主な薬物は麻薬、覚醒剤、大麻、シンナー、危険ドラッグです。特に大麻は「ゲートウェイ・ドラッグ」と呼ばれ、他の薬物使用のきっかけになる恐れが強いとされています。薬物乱用は大切な脳に悪影響をもたらし、ダメージを受けた脳は決して元に戻りません。

大麻での全国の検挙者数は7年連続で増え、過去最多を更新しています。中でも30歳以下の検挙者数は全体の6割を占めており、若者への大麻の浸透が深刻となっています。

薬物の乱用は、乱用者本人の健康問題だけでなく、犯罪につながりかねず、本人はもとより、家族や社会に及ぼす影響が計り知れません。こうした悲劇や不幸を防ぐと、県は運動を通し、薬物乱用の危険性や害悪を広く県民に知らせていく方針です。

—福祉の現場で働く人たちに
思いを聞きました—



やまざき
ちよこ
山崎千代子さん

認定NPO法人
「地域たすけあい
ネットワーク」理事長
介護福祉士

▶法人本部
＜地域たすけあいネットワーク＞
〒955-0071
三条市本町6-3-76
Tel 0256(34)2448

連絡先

「福祉の現場」へは「勧められて」という。

以前、就職に迷った時期があり、当時、発足して2年目の「地域たすけあいネットワーク」(以下「地域ネット」)の関係者の勧めでヘルパー2級(当時)を取得。直後の2001年、ヘルパーとして職員に。「利用者に感謝され、自分の居場所を見つけた気がした」

以降、常勤職員、理事、副理事長と歩み、推されて昨年5月、5代目の理事長に。「今も毎日、ヘルパー

蔵修復し住民集まる場に

として現場に出ます。歴代理事長(全員女性)もそうでした。現場を実感し続けるには欠かせません」
法人の活動すべてに責任



修復される「蔵」。住民交流の場となる

を持つ理事長として、就任直後から決断を迫られたのが本部の裏庭にある古い蔵への対応だった。

「解体か修復か、議論を重ねました」

金物の町、三条でかつて鍛冶職人が多く住んだ旧鍛冶町(現在の本町5、6)。その築後約100年という町屋の古民家が「地域ネット」の活動拠点だ。かじまの家と呼ばれ、法人本部を構えるほか、デイサービスや子ども食堂、売店なども運営する。そこに移った2003年



「地域たすけあいネットワーク」の活動拠点
「かじまの家」

ほど老朽化し、解体か修復か悩んだのです」

修復工事は、見積もりで400万円が必要と分かった。赤い羽根共同募金の「テーマ型募金」に応募した。実施したい活動と目標金額

を掲げて協力を呼び掛ける仕組みだが、

目標額には及ばなかった。独自に展開した募金を併せても見積金額は遠かった。

「それでも会議で、地域の人が集まれるコミュニティの場が必要だとの結論に至りました。費用の不足分は法人が負担します」
法人は本年度事業の一つに「蔵の再生と活用」を掲

げた。今秋に着工、床や外観を修復して11月には完成する見通し。

一つ、乗り越えても課題は尽きることがない。

「地域ネット」は、訪問介護やデイサービス、家事代行などのたすけあい事業の利用会員と担い手の参加会員を募り、住民参加型のささえあいを進める。長寿高齢社会に必要な取り組みだが、法人として人手不足が否めないという。

人材を求めて、6月に長岡市で開かれた「福祉のごと 就職フェア」には理事長も出向き、求職者たちと面談した。

「職員採用には至りませんでした。が、こうした活動は今後に生きると思う」

以前、活動拠点で開いた展示会を訪れた求職者がいて会話が弾んだ。こうした経験から、小さな縁も大切にと考える。「蔵を活用して訪れる人が増えれば、人手不足解消に良い結果を生むかも、と期待します」



新潟ユニゾンプラザ2階の「図書情報ルーム」(通称・ユニゾンの図書館)がお薦めする「今月の本」。

わがなる長寿目指し

高齢者医療の第一人者で「80歳の壁」など多くの著書のある和田秀樹氏。今回の「70歳の正解」は、脳と体の健康を守り、さらなる長寿へ向かうには60代から70代の生き方が重要で、その「正解」を伝えるのが本書の狙いという。

行き着くところの正解は「脳」のために「死ぬまで勉強」を。一方の「体」のためには「自然に体を動かすこと、つまり働くこと」



と断じる。

脳のための勉強に大切な記憶力は脳科学の見地から「75歳まで衰えない」と論じる。一方、忘れやすいことへの対策として、目や耳からの情報を口に出すなど「復習」を繰り返せば、記憶を定着できるという。

次に、人の幸福度に最大のダメージを与えるのは配偶者の死よりも「失業」だという。それほど、働くことが大切と力説。逆に「遊んで暮らす」ことに人間の脳はすぐ、飽きてしまうと「働く」は勤務だけではないの言うまでもない。何事にも好奇心を持って新しいことに触れ、社会との接点を持ち続ければ「老境よ、どんと来い!」。そう言えたら、すごい。

相手の身になり考える

有名な2人の名前に引かれ、絵本「どんなかんじかなあ」を手にとった。

絵は、週刊文春の表紙絵など、温かみのある筆致で

おなじみの故和田誠さん。文は俳優や歌手、小説家、政治家など、かつてマルチに活動した中山千夏さん。2005年発行、19年には13刷を重ね、好評だったことがうかがわれる。



動けない「ひろくん」は友達の身になって考えてみる。目のみえない「まりちゃん」には「みえないってどんなかんじかな」と目をつむって疑似体験。「たたくんのおと」が聞こえて驚く。次に耳の聞こえない友達などの気持ちを推し量る。

動けないひろくんを思いやる友達の言葉に、ひろくん、考える。だから、ひろくん。「うごけないって(略)すごいのかも」。

ひろくん、またいろいろと考えた。「うごけるって、どんなかんじかな」

パレット新潟店営業日

2023年 10月							2023年 11月						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7				1	2	3	4
8	9	10	11	12	13	14	5	6	7	8	9	10	11
15	16	17	18	19	20	21	12	13	14	15	16	17	18
22	23	24	25	26	27	28	19	20	21	22	23	24	25
29	30	31					26	27	28	29	30		

営業時間 11:30~16:30 □…は休業日

福祉の店 パレット情報



編集後記

病があれば治癒を望む。これは、誰しも当然のことと思っていた。しかし、今号の統合失調症の女性には必ずしも当てはまらない部分があるようで、戸惑いながら取材した。統合失調症の特徴的症狀、幻聴幻覚で見える1人を「人生の支え」といい、治療が進んで見えなくなることを心配しているのだ。症状が支えだなんて、あり得るのか、ある医師に意見を求めた。「とても珍しい。だけど、否定せずに受け入れて寄り添うことが大切」障害や病氣、生きづらさを抱える当事者を「福祉にいがた」は昨年初めから取り上げ続けている。狙いは、当事者たちの事情や思いを大勢に知ってほしいから。そうすることで障害や病氣、生きづらさへの理解が広がるのではないかと、当事者も暮らしやすい社会に、少しでも近づくのではないかと。あまりにささやかな試みではあるが、そう信じた。(佐)

この機関誌は、赤い羽根共同募金の助成を受け発行しています。

発行所/社会福祉法人 新潟県社会福祉協議会
新潟市中央区上所2-2-2ユニゾンプラザ
☎ 025-281-5584
発行人/関原 貢
定 価/5円 (会員の購読料は会費に含む)

福祉にいがた
令和5年10月1日発行 (毎月1日発行)
印刷/島津印刷株式会社